

## 『花粉症』は早期治療が効果的！

看護婦 梅木久子

くしゃみは止まらず、鼻水ぐずぐず、眼はウルウルのは、本人はもちろんのこと、見ているほうも気の毒でたまらないアレルギーです。

春は待ち遠しいけれど、ポカポカ陽気とともにやってくるこの症状、なんとか軽くするには、シーズンの一〜二週間前から専門科のお医者さんが処方してくれる予防薬を飲むことです。

効果が出るまでには一〜三週間かかるからなのです。今わかっているなかでもっとも効果があるようです。

でも、花粉の飛びはじめは、まだまだ花粉の量は少ないので、花粉症の初期症状のくしゃみなどが出て「しまった。」と思ってから、薬を飲み出しても遅くはありません。

大切なのは面倒くさくても、花粉のシーズンが終わるまで、その薬を根気よく飲みつづけることです。

マスク、うがいなどをして花粉を吸いこまないようにし、薬を飲んでさえいれば、不快なムズムズをおさえられるのですから、この方法を試してみませんか？



## リハビリりと意欲

理学療法士 水田秋敏

重度身体障害者施設に限らず、リハビリに関与しているとマンネリに陥ってしまうことがある。

そんな時は、あの人はこれ、この人はあれ…と知らず知らずのうちにやることをこちらの勝手な発想ばかりで固定してしまいその過程において、園生の内部から湧き上がる欲望を阻害してしまっていることがある。リハビリに方針を持つのは大切なことだが、その方向が園生の意に反することであれば、そのリハビリは園生にとって苦痛以外の何物でもなくなってしまうだろう。だから、施設のリハビリには園生の欲望を取り入れる必要性が生まれる。しかし、園生の言うことばかりが正しいと思っていはいけない場合もある。本当にその園生のためになり、将来性を見据えたものであれば、最前のことと相反する態度をこちらがとらなければならぬ場合もあるだろう。

この二つのことを正しく見極め、リハビリにおいて真になすべきことは何なのかを考えた時、問題になるのが、意志疎通のできない人たちの存在なのである。捻れた体幹や四肢を有することが多くなるこのカテゴリーの園生は、意志疎通ができないことをもって身体状態を悪化させるようなことがあってはならない。筋のストレッチをする際の表情を読みとることは、大切なコミュニケーションの一つであり、通常の反応を確認しておくことは、こちらサイドの大きな責任となってくるだろう。

概して、意欲とリハビリは一本の糸でつながっている。途中が切れれば、リハビリは義務という糸に引っぱられてしまう。例外を除いて、意欲とリハビリは一本の糸でしっかりと結んでおきたいものである。